

歴史民俗資料館だより No.165

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<https://www.city.nagasaki.lg.jp/page/2481.html>

資料館 HP



秋の郷土芸能展

会 期 令和8年9月3日(木)～

10月25日(日)

展示品 長崎くんちの衣装・和紙人形、郷土玩具
(奉納踊り)、絵画、屏風、幔幕など

清水崑筆・おくんちかっぱ屏風

昭和45年頃(1970)



オランダ万オの土鈴

昭和の郷土玩具

■企画展コーナー

長崎市内には、諏訪神社の秋の大祭長崎くんちの奉納踊りをはじめ、旧大村藩領や旧佐賀藩領地域などに伝わる郷土芸能が、現在まで大切に受け継がれてきました。奉納される演し物には、地域独特のものや、国内そして海外との交流の歴史を物語るものなどが、音曲や踊りに表れています。

今期の企画展は、長崎くんちはもちろん、「郷くんち」と呼ばれる市内各地に伝わる郷土芸能の魅力をあらためて広く周知するため、これまでに当館へご寄贈いただいた資料や写真等を中心に、ご紹介する内容といたしました。長崎に伝わる多彩な郷土芸能に触れていただき、その魅力を感じていただければ幸いです。

鎮西大社 諏訪神社



絵葉書・長崎諏訪国幣中社全景／大正14年頃(1925)

諏訪神社は、寛永2年(1625)に諏訪、森崎、住吉の三神を合祀して、西山郷円山(現在の松森神社の地)に創建されました。その後、現在地(上西山町)を下賜され、慶安元年(1648)新たに造営された社殿に遷宮いたしました。諏訪神社は長崎の総氏神とされている神社で、「お諏訪さん」と呼ばれて親しまれています。

くんちの語源とはじまり

重陽の節句、菊の節句の九月九日、この九日の“くにち”が「くんち」になったと言われています。

諏訪神社では寛永11年(1634)、神輿の巡幸が行われることとなり、9月7日初めてお旅所へ渡御(お下り)が行われました。渡御に先立ち、丸山町の遊女高尾・音羽の2人が神前に謡曲小舞を奉納、他の町もそれぞれ踊を奉納しました。これが奉納踊りの初めといわれています。現在は10月に行われており、今年で392年目を迎えます。

また、長崎くんちの奉納踊りは国の重要無形民俗文化財に指定されています。

■主な展示品の紹介

長崎くんちの奉納踊の演し物をモチーフにした郷土玩具が作られました。



唐人船



太鼓山



龍踊

鯨の潮吹き

長崎くんち
奉納踊

おどりちょう
「踊町」…奉納踊を担当する町。
役割は7年に1度巡ります。

演し物は、国際貿易都市としての長い歴史を持つ長崎の土地柄を色濃く反映し、国際色豊かなものや、交流のあった国内各地の芸能の影響が見られるものが多くあります。かつては世相を取り入れたものなどもあり、時代や町によっても多様です。

◆演し物の種類を一つご紹介

「曳きもの」…主に船の形にした山車に車輪を付けて、大勢の曳き手によって前進後退、回転の演技をします。

かつて大黒町の辺りの船着き場は中国船で賑わっていたことから、唐人船を奉納するようになりました



唐人船

駅前町 船頭衣装
昭和36年(1961)

◆出演者の衣装にも注目

演し物をひき入れる意味で先立って神前に入る、「先曳」と呼ばれるこどもたちの衣装。川船などの船の「船頭」は金糸・銀糸の華やかな刺繍が施された衣装で圧巻です。

「根曳」と呼ばれる、船の曳き手の衣装は川や海を表し、波しぶきや魚が描かれています。



足さばき

足さばきがいいように正絹ちりめんで作られています

川船

船大工町 根曳衣装
昭和52年(1977)

郷くんち
奉納踊

「郷くんち」と呼ばれる長崎市内各地の神社の秋祭りでは、地域に伝わる特色ある郷土芸能が奉納されています。



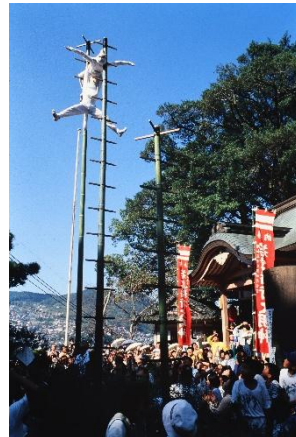
矢上平野浮立
令和元年(2019)撮影

大きな三日月形の月の輪をかぶり、大太鼓をたたきながら演舞します。ほかにも立道具やささら、かけ打ち等の種目を披露します。



中尾獅子浮立と唐子踊
令和7年(2025)撮影

獅子浮立の形態を持ち、のちに唐子踊と称するこどもの踊りが合わさったもの。獅子舞は2人1組で肩車した2頭の獅子と玉使いが出ます。



竹ン芸
昭和61年(1986)撮影

郷土玩具

竹ン芸の狐面

